

寛政の改革

寛政の改革は、老中松平定信の主導により断行された。この政権への交代が、天明の打ちこわしという民衆蜂起の脅威の下に実現したことは、改革の特質を理解する上で重要である。すなわち、いかにして都市の社会秩序を回復し、打ちこわしの再発を予防するかが、改革政策の1つの大きな柱となった。

○松平定信の登場

●謂われのない責任転嫁

1782年からの大飢饉⁽¹⁾ _____ は社会不安を増大させた。

⇒⁽²⁾ _____ は(1)や米価上昇の責任を転嫁され、

1786年、10代将軍⁽³⁾ _____ の死後に老中を^{しりぞ}退いた。



図1 徳川家斉

●脅威下の政権交代

1787年、全国的な打ちこわし⁽⁴⁾ _____ が江戸でも生じた。

→この民衆蜂起の脅威の下、11代将軍⁽⁵⁾ _____ の補佐として、

白河藩主⁽⁶⁾ _____ が老中に就任した。

⇒(6)は、⁽⁷⁾ _____ と総称される改革で、“内憂外患”に対処した。

内憂…飢饉で危うい農村の再興、民衆蜂起の防止、武士の不満解消

外患…日本近海に現れたロシア船・イギリス船などの外国船への対応

◇(6)…8代将軍徳川吉宗の次男徳川宗武の子で、^{たやす}田安家の出身



図2 松平定信

○寛政の改革—内憂

●農村の再興

松平定信は、荒廃した農村を再興させるために次の政策をおこなった。

①人口の少ない東北・北関東において、百姓の他所への出稼ぎを制限

②耕地復旧のために、全国で公金の貸付^{かじつけ}を開始

③飢饉用米穀の貯蔵倉⁽⁸⁾ _____ ・⁽⁹⁾ _____ を各地に設置し、

そこに米穀を蓄える政策⁽¹⁰⁾ _____ を実施

◇(8)…藩主が設置する貯蔵槽 / (9)…富裕者の寄付で設置する貯蔵倉

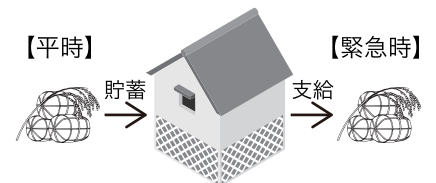


図3 社倉・義倉

●民衆蜂起の防止

松平定信は、打ちこわしが起きた江戸の次なる蜂起の防止に取り組んだ。

⇒政策実行に、^{りょうがえしょう}両替商などを10名からなる勘定所御用達に登用した。

<農業人口確保と流入民減少>

⁽¹¹⁾ _____ を発令して、出稼ぎ目的での江戸への流入民に資金を与え、故郷へ帰らせようとした。

<蜂起の危険分子の拘禁>

江戸石川島に⁽¹²⁾ _____ を設置して、危険分子の無宿^{むしゆくにん}人を強制収容し、社会復帰のために職業技術を覚えさせてから釈放した。

◇農村からの流入民は、大半が定職・住居を持たずに秩序を乱す無宿人に転落

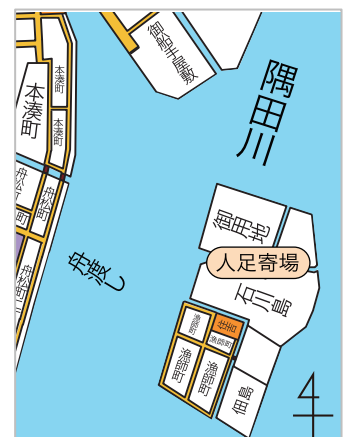


図4 人足寄場

<救済用資金の確保>

江戸の各町に町費（町入用）節約を命じ、節減額の7分（70%）を積み立てさせ、⁽¹³⁾ _____ と呼ばれる飢饉・災害時の救済用資金に充てた。

⇒そして、新設した⁽¹⁴⁾ _____ に（13）の管理・運用を任せた。

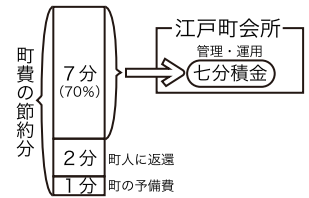


図5 七分積金

<出版と思想の統制>

政治批判がましい出版物は、風俗の悪化や民衆蜂起の煽動^{せんどう}に繋がると考えられた。

→出版統制令を発令して、洒落本^{しゃれほん}や黄表紙^{きびょうし}などの貸出・売買を禁じた。

⇒洒落本作家の⁽¹⁵⁾ _____、黄表紙作家の⁽¹⁶⁾ _____、出版元の葛屋重三郎が処罰された。



思想家⁽¹⁷⁾ _____ は、『三国通覧図説』⁽¹⁸⁾ _____ を著し、

外国の侵略から日本を守るために海防の必要性を力説した。

⇒定信は、民間の者が幕府の政策を論ずべきでないとし、⁽¹⁷⁾ を処罰した。



図6 林子平

●武士の不満解消

<困窮する武士の救済>

旗本・御家人の代理として蔵米^{くらまい}を売却する⁽¹⁹⁾ _____ は、金融業で巨利を得ていた。

⇒旗本・御家人は（19）からの貸金によく頼り、その返済に苦しんだ。



松平定信は⁽²⁰⁾ _____ を発令し、（19）に貸金返済の帳消しを命じた。

⇒旗本・御家人への貸金は、新設した貸金会所に低利でおこなわせた。

<武士の不満抑制と解消>

儒学による武士の教育が、出世などに対する不満の抑制に繋がると考えられた。



定信は⁽²¹⁾ _____ を発して、儒学のうちで⁽²²⁾ _____ を“正学”とし、

⁽²³⁾ _____ に付属する林家の私塾で（22）以外の学派“異学”の講義を禁じた。

→1797年、この私塾は切り離され、幕府直轄の学問所⁽²⁴⁾ _____ となった。

⇒学問所では人材登用のための学術試験をおこない、下級武士に出世の機会をつくった。

◇異学…例えば、儒学の一派である古学（古学派）・陽明学など

◇（24）…岡田寒泉（後に古賀精里と交代）・⁽²⁵⁾ _____ ・尾藤二洲^{びとうじしゅう}が、

学問所の教官を務め、当時の人は彼らを「⁽²⁶⁾ _____ 」と呼称



図7 柴野栗山

歪められた人物評価—田沼意次

農業中心から市場経済中心の時代への過渡期、田沼意次はいち早く従来の武士の倫理観を脱却し、商いを重視した。しかし、時代を先取りし過ぎた政策に、反発する勢力も現れた。特に松平定信は真っ向から反発し、飢饉時に放った言葉は苛烈を極めた。晩年の意次は病に伏したが、新政権は医師の往診をわざと控えさせた。そして死後、巷には「まいない鳥（賄賂をもとめて飛び回る役人の姿）」などの風刺画が出回った。やがて風刺画は意次を表すと伝えられ、後世意次は悪徳政治家として語られた。今日、これらは幕府への批判を逸らそうとした人々が誇張したものと考えられている。

